

中 守 破 離



令和5年7月6日(木) 第13号

平成30年7月豪雨災害

平成30年7月6日から7月7日にかけて発生した豪雨災害から5年が経過しました。

呉市における人的被害は、死者が29人（災害関連死を含む）、負傷者が22人。建物等の被害は、建物被害が3239件（全壊・半壊・床下浸水など）、土地被害が770件（崩壊・陥没・流出など）です。

表 死者(直接死)の地区・被災場所別内訳

地区	死者数	自宅	自宅以外
天応	12人	6人	6人
安浦	4人	3人	1人
吉浦	3人	3人	
中央	2人	1人	1人
音戸	2人	2人	
阿賀	1人	1人	
蒲刈	1人	1人	
合計	25人	17人	8人

表 死者(直接死)の年齢・被災場所別内訳

年齢	合計	自宅	自宅以外
0～9歳	0人		
10～19歳	2人		2人
20～29歳	0人		
30～39歳	1人		1人
40～49歳	4人	3人	1人
50～59歳	2人	2人	
60～69歳	6人	5人	1人
70～79歳	5人	2人	3人
80～89歳	3人	3人	
90歳以上	2人	2人	
合計	25人	17人	8人

(注) 被災場所については、いずれも発見場所や死者の住所等から呉市で推定したものを。

この日のことを少し振り返ってみます。7月6日は金曜日でした。しかし、早朝午前5時40分には大雨警報が発表され、呉市内の学校はすべて休校になりました。その後の雨の降り方によっては大変なことになるかもしれないということで、先生たちも早めに帰宅しました。前の日から降り続いていた雨は、昼ごろいったん落ちついたのですが、その後、夕方18時～21時の3時間で時間雨量約60ミリという猛烈な雨が降りました。さらに日付が変わった7月7日(土)の午前3時～6時にふたたび時間雨量約50ミリの激しい雨が降りました。



国道185号仁方町 崩土のため通行止

道路があちこちで不通となり、呉市全体が「陸の孤島」となってしまいました。JR 呉線も大きな被害を受け不通となりました。広一呉間再開が8月20日。しかし、このときはまだ呉駅と坂駅の間が不通でした。広島までつながったのは9月9日。川尻までが10月14日。呉線全線再開は12月15日、災害発生から5ヶ月後のことでした。

この写真は、7月7日の早朝、当時勤務していた片山中学校区の被害状況を確認しにいった時に撮影したものです。校区内を歩いた後に、呉市体育館から市役所のあたりに行くと、このように車が水没していました。それから1週間くらい断水が続き、毎日仕事の後、給水場と自宅を往復したことをよく覚えています。



今週は、呉市学校防災週間です。多くの貴い犠牲を出した災害から学んでいくことが、今を生きる私たちの大切な使命です。もし仮に今、同じような大雨による災害が発生したとしても、自分の命を自分で守ることができるように、そして自分の大切な人たちの命を守ることができるように、しっかり学習していきましょう。

平成30年豪雨について調べてみよう

災害発生から5年。時間とともに記憶がうすれていくのは仕方のないことですが、忘れてはいけないことがあります。例えば1945年8月6日に広島に投下された原子爆弾。戦争や核兵器によって再び尊い命が奪われることがないように、70年以上の時間が経過した今も語り継がれています。それと同じように、これから起こるかもしれない災害から、自分の命や自分の大切な人の命を守るために、5年前の豪雨災害で何が起こったのかをしっかりと知り、どうしていけばいいのかを考えていくことが大切です。

参考になりそうな資料につながるQRコードを紹介します。時間があるときにぜひ自分の目で確かめてみてください。(②③は岡山県のもので、映像・写真・被災者証言などで被害の実相がよくわかるものになっています)



① 呉市役所ホームページ

呉市災害記録誌「気象の概要と被害の状況」⇒



② 岡山県庁ホームページ

「映像で見る平成30年7月豪雨災害」⇒



③ 山陽新聞社ホームページ

「西日本豪雨特集～データで見る被害状況」⇒

